

居場所

知りたい、行ってみたい、始めてみたいに 応えます！

静岡県の「居場所づくり」は静岡県、静岡県社会福祉協議会、さわやか静岡(公益財団法人さわやか福祉財団に所属し県内でささえあい活動をしているさわやかインストラクターで構成)の三者が協働で進めている取組です。本誌に掲載されている居場所の他、既に120程度の居場所が静岡県内にあります。平成27年6月、居場所実践者がつながり、情報交換する「静岡県居場所アドバイザー連絡会」をさわやか静岡(インストラクター4名)と県内各地で居場所を実践している7名で立ち上げました。居場所を始めてみたいという皆さんからの相談を受け、多くの方に居場所を理解してもらえるような研修会や交流会などを行っています。この他にも居場所の立ち上げや活動を支援する様々な事業があります。

INFORMATION

「居場所立ち上げのための」インフォメーション

① 県内の居場所の連絡先を知りたいとき

静岡県健康福祉部長寿政策課 計画班 ☎054-221-3250

② 居場所に関するボランティア保険などについて知りたいとき

静岡県社会福祉協議会 地域福祉課 ☎054-254-5224

③ 居場所についての相談は

静岡居場所アドバイザー連絡会
(連絡先…最寄りのアドバイザーの「居場所」に直接ご連絡ください)

④ 実践者派遣事業について知りたいとき

静岡県健康福祉部長寿政策課 計画班 ☎054-221-3250

※実践者派遣事業：共生型福祉施設サービスや居場所づくりに取り組もうとしている事業者、団体等に対して、経営や法務の専門家や先進的な事業者・団体等を派遣し、ふじのくに型福祉サービスの普及を支援する事業。

静岡県居場所アドバイザー連絡会

こんな時にはアドバイザーにご相談ください

- 県内にある居場所の情報を知りたいとき
- 居場所に関する勉強会やシンポジウムに参加したいとき
- 居場所をやってみたいけれど、どこから取り組めばよいかわからないとき
- 核になるメンバーをどのように集めればよいかアドバイスして欲しいとき
- 運営をどのようにしたらよいかわからないとき
- 行政や企業などとの連携方法

<写真前列左から> ★印は「さわやか静岡」所属
鈴木明与(みんなの居場所 わくわく亭/静岡市清水区)★、脊古光子(オープンカフェぎじの社/浜松市浜北区)★、稲葉ゆり子(街の居場所もうひとつの家/袋井市)★、諸田サヨ(サヨばあちゃんの休憩所/島田市)
<写真後列左から>
原田和正(シニアライフ支援センターくれば/静岡市葵区)、木下さち子(出前式居場所すずらん会/沼津市)★、外岡準司(黒田よりあいサロン/富士宮市)、藤下品子(活き生きサロン寄って亭/静岡市清水区)、大友勇(七美クラブ/熱海市)、勝俣信一(コミュニティカフェ悠遊/三島市)
<写真掲載なし> 青森千枝美(伊豆・松崎・であい村蔵ら/松崎町)

静岡県居場所アドバイザー連絡会メンバー



※連絡先は、本誌、各居場所紹介ページをご覧ください。

サードプレイスとしての「居場所」

静岡福祉大学健康福祉学科教授

西尾 敦史



自宅(第一の場)や職場・学校(第二の場)ではない、一個人としてくつろぐことができる第三の場が「サードプレイス」。米国の社会学者レイ・オルデンバーグが提唱した概念である。オルデンバーグはサードプレイスを、都市生活者に出会いや良好な人間関係を提供する重要な場として、フランスのカフェやイギリスのパブなどをその例に挙げている。では日本のサードプレイスはどこにあるのだろうか。

戦後の日本、とくに高度経済成長期は、「家」と「会社」が、ほとんどの時間を過ごすプレイスであったが、その第一と第二のプレイスがゆらいでいる。今日の少子高齢化、人口減少、社会の「個人化」(個人がそれまでの共同体から離脱する)という変化の中で、新たな第三の場(サードプレイス)を私たちは必要としている。その一つの答えがふじのくに型福祉サービスの「居場所」といえる。このサードプレイスとしての居場所の今日的な意味を「しあわせ」という視点から考えてみたい。

最近の幸福度研究は、経済的な豊かさだけでなく、「心身の健康」や「関係性」(人とのつながり)と強い関連があることを明らかにしてきた。また、戦後制度化された福祉は、困窮を救済するための施設が中心の措置制度だったが、今日の福祉は、「ふ(・)だんの く(・)らしの し(・)あわせ」であり、誰もが日常生活の中で権利として実現し、享受しうる普遍的な価値(福祉=しあわせ)として理解されるようになった。

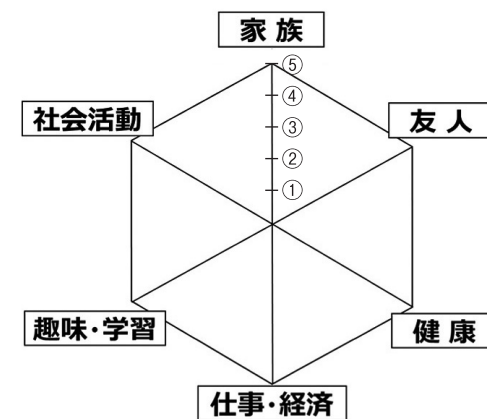
そこで、個人=「私」のしあわせから出発して、地域のみんなのしあわせを高めるために(その逆もまた可能)、「しあわせのダイアグラム」(図)を活用してみたい。

6つの視点から、まずは現在の主観的なしあわせ度をダイアグラム上で自己評価した上で、それを高めていくために、他の視点を活かしてみる。たとえば、「社会活動」(ボランティア)を高めるために、「趣味・学習」を活かすなど。しあわせ度は変化するもの。6つの視点のしあわせを「私」の人生設計に生かしてみたい。

今度は、それを私が参加するグループやサークルなどに応用してみる。私たちの会の活動が「ホンネが言える、相談しやすい」(友人)関係をつくりだしているか、などを評価してみる。これをさらに、私たちが生活する地域社会(コミュニティ)にも拡大してみる。そうすると「私」のしあわせと「私たち」のしあわせがつながっていて、さらに相互に高めていくことができるヒントが得られるかもしれない。

その地域社会には、自分らしく暮らし続けられる環境がつけられ、つながりとしあわせを感じられる、多世代共生、かつ多世代共創の「居場所」が豊かに花開いているに違いない。

図 しあわせのダイアグラム



(木原孝久・住民福祉総合研究所「豊かさダイアグラム」より作成)

表

「私」と「私たち」のしあわせチェックリスト(しあわせを大きくするために)

	私(個人)(例)	私たち(例)	チェックポイント(例)	地域社会(コミュニティ)
家族	娘夫婦とはうまくいっている	男性も女性も参加している	家族も参加しやすい?	
友人	なじみの店に何人かいる	互いに尊重することのできる仲間がいる	ホンネが言える、相談できる?	
健康	慢性的な腰痛である	健康のため、皆で体操を行う機会がある	つながりで健康づくりになる?	
仕事・経済	年金収入のみで仕事はしていない	自分の経験を生かし、団体の中で講座を開くことがあった	仕事・役割・出番がある?	
趣味・学習	健康マージャンのサークルに入っている	地元の歴史を学ぶ機会がある	地元文化や学習がある?	
社会活動	ボランティア活動を行っている	出張で講座を開くことがある	関係ができる、助け合える?	